

**令和7年度外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業
外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業担当者連絡協議会 報告書**

1. 目的

各自治体で取り組んでいる外部講師を活用したがん教育等の実践事例を、自治体の担当者同士で情報共有や意見交換を行い、がん教育等の外部講師を活用した教育活動を推進する。

2. 内容

- ・実施日時：令和7年9月9日(火) 13：30～16：30
- ・会場：文部科学省 東館3階「講堂」
- ・対象：外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業担当者

13：30～13：35	開会の挨拶： 文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 課長補佐 高橋 苗々子 氏
13：35～13：40	事業説明： 文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 がん教育推進係長 大坂 圭 氏 事業概要 ①：学習指導要領に対応したがん教育の成果等の普及について 事業概要 ②：がん教育等現代的な健康課題の理解増進に向けた外部講師を活用した教育活動の実施について
13：40～13：55	講義： 文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 健康教育調査官 岩田 悟 氏 担当指導主事として取り組むがん教育等推進のポイント
13：55～14：10	実践事例発表： 栃木県教育委員会 健康体育課 学校保健・給食担当 副主幹 渡邊 哲郎 氏 令和6年度「心の健康に関する取組」 ・「心の健康」に関する外部講師派遣 実施までの流れ ・実施形態の例 ・外部講師選出方法、選出するまでのポイント ・事前・事後打ち合わせで留意したこと ・講話の主な内容、実施後の生徒の意識変容について 等
14：10～14：20	質疑応答（実践事例発表に対する質疑応答） <質問内容>

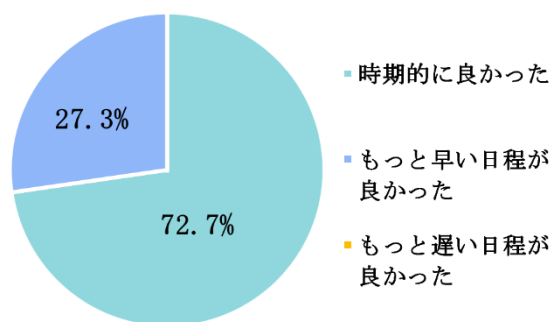
	・メニューⅡ・Ⅲの実施にあたり、協議会メンバーの構成に変更はあったか ・前年度に準備として取りかかっていたことについて ・想定以上の学校数での実施について、予算上の対応は可能であったか また中学生など他の校種への展開予定はあるか ・メニューⅢにおける実践発表の予定はあるか ・がん以外の取組も行う場合、業務負担感はないか
 栃木県教育委員会の渡邊 哲郎 氏により令和6年度の「心の健康」について実践事例発表	  他の自治体から次々と質問が出る等、活気ある質疑応答が繰り返された
14：20～15：25	グループ協議 14：20～14：40 事前課題の説明 各グループにて具体的な取組、成果と課題などについて発表・共有 14：40～15：25 グループ協議 ・疑問に思ったことやさらに詳しい内容を知りたいことについて確認 ・協議の中心は課題の解決に向けた見通しをもつ ・協議を通して新たな課題が生じた場合、その課題についても協議 〈協議題及び各協議題の視点〉 協議題①： 外部講師によるがん教育をより一層推進するためにはどうすればよいか？ ・学校が外部講師を活用しやすい体制になっているか？ ・継続的に派遣可能な仕組が構築できているか？ ・外部講師を活用することにより、より効果的な指導につながっているか？ 協議題②： がん教育以外の現代的な健康課題への理解増進に関する外部講師活用を促進するためにはどうすればよいか？ ・がん教育以外の外部講師活用の実践事例はどのようなものがあるか？ ・外部講師を活用することにより、より効果的な指導につながっているか？
15：25～15：35	休憩
15：35～16：10	全体発表 グループ代表による発表

	協議①での主な発表内容 ・ 関係部署や団体との連携強化による外部講師の拡充 ・ 外部講師体制の整備 ・ 外部講師リストの充実と周知 ・ がん教育の重要性や事業周知の工夫（市町村との連携強化等） ・ 予算・制度面の整備 等 協議②での主な発表内容 ・ がん教育以外の現代的な健康課題についての学校ニーズの把握 ・ 県庁内の他の関係課や市区町村との連携 ・ 課題と関連付ける教材作りの工夫 ・ 校内のカウンセラーの放課後活用 等 ※上記の重要性や必要性についての発表があった
 グループ協議ではどのグループも活発に協議をする様子が見受けられ、協議した内容は ZOOM のホワイトボードに入力、グループとしての意見をまとめた	 タブレットで入力した内容に沿って補足説明等を加えながらグループ発表が行われた
16 : 10～16 : 30	指導講評： 文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 健康教育調査官 岩田 悟 氏 ・ 全体発表講評 ・ 保健教育で特に着目すべき「顕在化している課題」～授業改善について ・ がん教育等のカリキュラムマネジメント、教育振興基本計画との関係 等
16 : 30～16 : 35	諸連絡
16 : 35	終了・閉会
3. 参加者 ・ 申込期間：7 月 22 日（火）～8 月 12 日（火） ・ 参加人数：33 名（30 自治体）	

4. アンケート項目：「開催時期」について

回答	回答数	構成
①時期的に良かった	24 人	72.7%
②もっと早い日程が良かった	9 人	27.3%
③もっと遅い日程が良かった	0 人	0.0%
合計	33 人	100.0%

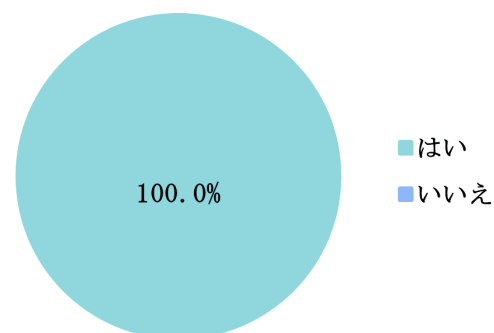
「もっと早い日程が良かった」と回答した人は、昨年度は 8 月に実施したため、今年度は少し遅いと感じられたのではないかと考えられる。



5. アンケート項目：「他自治体担当者との情報交換の場になったか」について

回答	回答数	構成
①はい	33 人	100.0%
②いいえ	0 人	0.0%
合計	33 人	100.0%

全員が「はい」と回答、他自治体担当者との情報交換の場と理解されていた。



設問 2 の理由【「はい」と回答した理由（抜粋）】

回答理由
都道府県の担当者間で互いの取組状況について、成果や課題を共有することができた。
他県の実践状況をお伺いすることができ、とても有意義だった。 グループ協議では、外部講師活用をより一層推進していくためにどうすれば良いかを話し合っている中で、様々なアイデアが生まれた。
他県の状況や取組内容等を情報交換することで、当県の取組にも生かせる内容があった。

6. アンケート項目：「参加して良かった点、学びになった点」について （抜粋）

参加して良かった点、学びになった点
他自治体の取組を学ぶことで本県の課題が明確になり、また本県の取組の良い部分もあらためて気づくことができた。
がん教育の学校への周知の仕方やタイミング等、事業が上手くいっているところからその工夫について知ることができた。
自治体ごとに実情は異なるが、事業の進め方の工夫などを聞くことができ、新たな視点で事業の進め方について考える機会をいただけたのが良かった。
がん教育以外の外部講師活用について実践発表があった点は、今後の参考になった。 がん教育で手いっぱい新しいことにハードルを感じても、すでに関係をもっている連携機関や専門医等に相談するなど視点を変えて事業をみてもいいことを学ぶことができた。

7. アンケート項目：「参加してもっと知りたい、学びたいと思った点」について（抜粋）

参加してもっと知りたい、学びたいと思った点
がん患者との連携に関する各自治体の取組や外部講師向けの研修会の内容及び講師の詳細
各学校が自走でがん教育において外部講師を活用していくことができるようにするための仕組みづくり
推進校の選定の仕方や実施率が向上した地域の取組。実施率向上のために取り組んだ方策
がん教育以外の現代的健康課題の理解増進に向けた外部講師の活用事例や活用に向けた取組等

8. アンケート項目「協議会全体（運営面等含む）を通して、要望等」について（抜粋）

協議会全体(運営面等含む)を通しての要望等
情報交換する時間を増やしてもらいたい。（2回グループ分けをするなど）
グループ協議も良いが、限られた時間なので各担当者が日頃から全国的にどうしているだろうという疑問を事前に集めて当日協議する方式でもいい。
半日ではなく、1日開催でもっと情報交換や課題解決等のディスカッションをしてみたい。
各県の工夫を文部科学省でも取り入れて各県に情報発信していくと、現在実施していない県ももっと取り組みやすくなるのではないかな。